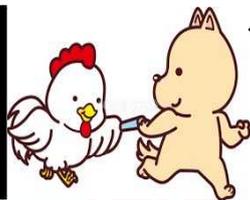


眩輝

げんき



佐世保市立江迎中学校

学校だより NO. 33

校長 山邊 修治

平成30年1月9日(火)



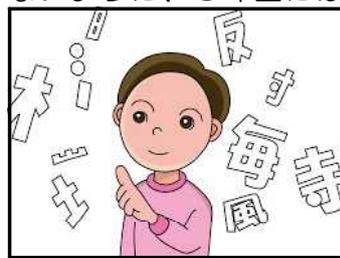
2018年、新しい年のスタートです

各地で初日の出が見られた2018年。本年もどうぞよろしくお願ひします。昨年4月に着任して保護者・地域の皆様の協力を得ながら、様々な教育活動や学校行事を進めてきました。皆様のご理解とご協力に対して改めてお礼を申し上げます。これまでの取組をとおして子どもたちは着実に成長し、3年生は高校生になるための準備を、2年生は最高学年として江迎中学校をリードしていく力を、そして1年生は中学生としての自覚と実践力を身につけてきました。本年度も残り3ヶ月となりましたが、全教職員の力を結集して子どもたちの成長を支えていきたいと思ひます。



入試に向けて

現在、3年生は高校入試に向けて願書等を書いています。他の学校での経験ですが、自分の姓名を正しく漢字で書けない子どもがいました。略字ならまだいいのですが、漢字自体を間違っていることに気づかず、ずっとそのままにしてきた子どももいました。このようなことがないように、3年生にはこの機会にしっかりと確認をしてほしいと思ひます。そして、1年生、2年生も自分の姓名を漢字で正しく書けるよう練習をしておいてほしいと思ひます。特に願書というのは、高校に最初に提出する文書であり、しかも、子ども自身が自分で書いたものです。誤字や脱字などについては学校でも点検をしますが、まずは子どもたちが自分自身で「正しく」「ていねい」に書けるようになってほしいと思ひます。何事も第一印象が大切です。



やってみました、「聞く・考える・思う・表現する」

冬休み前の全校集会での私の講話を聞いて、「わかったこと」「感じたこと」「思ったこと」を短い文章にする活動に取り組みせました。現在、国語の学力向上、表現力向上を目的として、聞いたことをそのまま文章に起こしたり、聞いた後に感想を書く取組が行われています。そこで、本校でも実施してみました。話の内容は①冬至について、②終わりよければすべてよし、③一年の計は元旦にあり。

短時間で書けるよう90文字程度で、3つのことすべてを書かなくてもいいので、「感じたこと」「思ったこと」をしっかりと書くように話をしました。全員の文章を見て感じたことは、「わかったこと」はどの学年もとてもよく書けていましたが、「感じたこと」「思ったこと」がうまく表現できていなかったようです。子どもたちは聞く力は十分に持っていると思ひますが、聞いたことに対する自分自身の感想や考えを持ち、それを自分自身の言葉で表現する力を今後伸ばしていく必要があると感じました。

冬至、私はこの言葉を聞き、亡くなった祖母はいつもこの時期、夕食にカボチャを炊いて毎日毎日カボチャづくしでした。いやだった記憶がよみがえり、とても懐かしく悲しく思いました(3年女子)。校長先生の話の中で印象が強かったのは冬至の話です。しかし、私が注目したのは3年生の認知度の低さである。しっかりと覚えておきたい(3年男子)。終わりよければすべてよしという言葉が私にとって心に残りました。どんなに嫌なことがあった日でも、家に帰ると大切な家族が出迎えてくれる。そんな日常が私にとって一番の楽しみだからです。(2年女子)冬至、昼が短くなることです。冬至の他にも夏至・春分・秋分もあります。もしも、昼が短くなったなと思ったら、冬至の時期だなと思ひますね。昼が短くなれば、夜が長くなります。夜は星がきれい(2年女子)。